

## 令和3年度 福岡市西区地域包括ケア推進会議【議事要旨】

- 1 日 時 令和4年2月7日（月） 10:00～10:40
- 2 場 所 西区保健福祉センター 講堂
- 3 出席者 **【委員】**  
河崎委員、久保委員、古賀委員、進藤委員、末永委員、角委員、  
高木委員、立石委員（オンライン）、淵野委員（オンライン）、  
満生委員（オンライン）、森本委員（オンライン）、渡邊委員、  
角石委員代理/西消防署 岡林課長（オンライン）

関係機関及び事務局 別添のとおり

- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題 (1) 会長、副会長の選出について  
(2) 福岡市地域包括ケアアクションプランの改定について  
(3) 西区における地域包括ケアの推進について

### (1) 会長及び副会長の選出について

福岡市西区地域包括ケア推進会議設置要綱の規定に基づき、委員の互選により、会長に淵野委員、副会長に高木委員を選出した。

### (2) 福岡市地域包括ケアアクションプランの改定について

**資料1に基づき、事務局より説明**

(質問、意見等なし)

### (3) 西区における地域包括ケアの推進について

**資料2～資料5に基づき、事務局より説明**

【会 長】 資料2「令和3年度の取組み」の“オール西区”での取組みについては、本当にそのとおりだと思う。「ACPの周知・啓発」については、「ACP」「人生会議」という言葉は難しい言葉と思うが、現段階でどれくらい市民等に知られているのだろうか。区としてはどの程度手応えがあるか。

【事務局】 ACPの周知・啓発には力を入れており、“オール西区”で取り組んでいるが、厚労省の資料では、市民の認知度は3%とあり、実感としてもまだまだ市民の方には浸透していないと感じている。現在、地域包括支援センターの主任ケアマネージャー等の専門職が中心となり、医療・介護について考えていく段階にある方、介護認定を受けられる方等に対し、「見守りシート」などを使って、ACPを勧めている段階である。健康な方、日常生活に支障がなくある程度元気な方に対し、将来のことを考える機会を、今後、どこでつくっていくか、どのように投げかけていくかということは大きな課題と考えており、今年度は、在宅医療とエンディングノートを組み合わせた終活講座を実施している。引き続きACPの普及・啓発に取り組み、エンディングノート等の活用につなげていきたい。

【副会長】 いつもこのような会議に出て思うのは、資料はよくできているが、これだけのことを地域がどれくらいできるのかということ。自治協議会は人員がいない。地域の人には専門性がない。もう少しわかりやすい資料を検討していただきたい。地域としては大変と常々思っており、十分な検討をお願いしたい。

【事務局】 できるだけ地域に負担がかからないよう、既存の団体や役員の方々と連携し、今やっている中で、できること等を話し合いながら、わがまちサミット等の実施を通して、検討していければと考えている。

【会長】 コロナ禍でもつながりを大事にしていけないといけない「地域包括ケアの推進」である。今年も冒頭から取り組みについて大きな障害があると思うが、今こそ皆で協力してやっていけないといけない状況だと思う。様々な弊害や障害がある中、それこそ「オール西区」でやっていくという、参加の皆さんで心をひとつにしてもらえれば、今日の会議の意味があると思う。よろしくをお願いしたい。

#### ○意見交換【書面】

「虚弱高齢者や支援を要する高齢者の早期発見・早期支援について」

資料6に基づき、事務局より説明

上記テーマについて、各委員より書面にて意見をいただくこととした。